

人権週間 映画会

入場無料

令和4年(2022年)

12月8日(木)
みつなかホール

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください
※当日は、新型コロナウイルス感染症対策にご協力
お願いします



©全国水平社創立100周年記念映画製作委員会

定員/各 480 人 当日先着順・入れ替えなし

■上映スケジュール

「破戒」 ①10:30 ②15:25

「コーダ あいのうた」
①13:00 ②17:40

※折り鶴平和大使による活動報告
15:00~15:20

は かい 破 戒

2022年 日本 119分 (日本語字幕付)

島崎藤村・不朽の名作「破戒」を 60年ぶりに映画化

主演: 間宮祥太郎

丑松(間宮)は、「人間はみな等しく尊厳をもつものだ」という演説会での猪子の言葉に強い感動を覚えるが、その猪子は凶刃により命を落とす。この事件をキッカケに、丑松はある決意に至る……。

コーダ あいのうた

2021年 米国他 112分 PG12
(日本語吹替え 字幕付)

2021年度アカデミー賞 (作品賞等)受賞! 作品

家族の中でたった一人「聴者」、である少女・ルビーは、家族の「通訳」係だった。そんな彼女は「歌うこと」を夢みた。そして、彼女が振り絞った一歩踏み出す勇気が、愉快で厄介な家族も、抱えた問題もすべてを力に変えていく——。日本でも公開し感動を呼んだ、フランス映画「エール!」のハリウッド版リメイク。



©2020 VENDOME PICTURES LLC, PATHE FILMS.

主催: 川西市

問合せ: 人権推進課 ☎072-740-1150

「水平社宣言(全国水平社創立)100年」

大正11年(1922年)3月3日、京都市の岡崎公会堂に、全国の被差別部落のりびとが自らの解放を求めて集まり、「全国水平社」の創立大会が開かれました。その時に読み上げられた(採択された)宣言文が「水平社宣言」です。

その全文は下記のとおりです。そこには、「同情ではなく人間を尊敬することによって、不当な差別を受け入れることなく誇りを持って自らが立ち上がり、自分たちだけでなく、すべての人間の解放をめざす運動を進めていく」という当事者の熱い気持ちが込められています。これは、「日本で初めて、また被差別当事者が発信した世界初の人権宣言」とも言われ、その後の部落解放運動のみならず、さまざまな人権運動にも影響を与えました。



創立大会での少年代表の演説風景

*それから今年(2022年)で「100年」が経ちました。この間、当事者自身の差別撤廃運動や国・地方自治体で様々な行政施策が進められてきました。しかし、残念ながら、差別は未だ無くなっていないのが現状です。

そのような実態を国も国会も看過できないものとなり、2016(平成28)年に「部落差別解消推進法」が制定・施行されました。この法律には、差別は今も厳然として存在していること、その解消が重要な課題であり、部落差別のない社会を実現することがうたわれています。

宣言

全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。

長い間虐(いじ)められて来た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、多くの人々によつてなされた吾等(われら)の為(ため)の運動が、何等の有難い効果を齎(もた)らさなかつた事實は、夫等(それら)のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎(つね)に人間を冒瀆(ぼうとく)されてゐた罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勦(いたわ)るかの如き運動は、かへつて多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際(このさい)吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集団運動を起せるは、寧(むし)ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者(かつこうしゃ)であり、実行者であつた。陋劣(ろうれつ)なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥(は)ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖かい人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑(ちやうしやう)の唾(つば)まで吐きかけられた呪(のろ)はれの世の悪夢のうちにも、なほ誇りうる人間の血は、涸(か)れずにあつた。そうだ、そして吾々は、この血を享(う)けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印(らくいん)を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荊冠(けいかん)を祝福される時が来たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦(きようだ)なる行為によつて、祖先を辱(はずか)しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何(ど)んなに冷たいか、人間を勦(いたわ)る事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱と光を願(ねが)ふ(がん)ぐ(ぐ)らい(さん)するものである。

水平社はかくして生れた。
人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月 水平社

※右記の文章は、読みやすいように原文の一部の表記を変更し、ふり仮名を挿入しています。

『コーダ あいのうた』 2021年アカデミー賞主要3部門受賞

作品賞・助演男優賞・脚色賞



2014年に制作されたフランス映画『エール!』をリメイクした本作は、マサチューセッツ州の海辺の町を舞台に、4人家族の中で一人だけ耳が聞こえる高校生の長女ルビー(エミリア・ジョーンズ)が、夢と現実の狭間で葛藤するさまを追う。家業の漁業を手伝い日々家族を支えてきたルビーは、合唱クラブで歌の才能を認められ有名音楽大学への進学を夢みるようになるが、ルビーの歌声が聞こえない両親は娘の才能を信じられず反対する。タイトルの「コーダ」とは、「Child of Deaf Adults(チャイルド オブ デフ アダルト)」の略で、耳の聴こえない・聴こえにくい親を持つ子どものことを指す。1980年代にアメリカで生まれた言葉である。

本作では耳の不自由な両親と兄を、実際に聴覚障がいのある俳優たちが演じ、父を演じたトロイ・コッツァーが男性ろう者俳優として初のアカデミー賞助演男優賞を受賞。監督のシアン・ヘダーが脚色賞に輝いた。

音楽には『ラ・ラ・ランド』(2018)に参加したマリウス・デ・ヴリーズが名を連ね、1968年リリースのソウルの定番「ユア・オール・アイ・ニード」などの名曲が用いられている。ルビーがオーディションで歌うバラード「青春の光と影」は、エミリア・ジョーンズの徹底したレッスンによる見事な表現力で、美しい歌声とASL(アメリカ式手話)の双方において感動を誘う。

※『エール!』も、2016(平成28)年に人権週間映画会で上映しました。

※同年アカデミー賞では、日本映画の『ドライブ・マイ・カー』が、国際長編映画賞を受賞しています。